

「輝く雪」のまち

ぬまた町

みんなの議会

2014年2月
第56号



笑顔と会話の
商店街。

主な
内容

- 年末のにぎわい創出事業を可決 2ページ
- トップセールス予算を可決 2ページ
- 平成24年度決算を意見を付して認定 10ページ



地域提案型まちづくり事業を
子どもの学力向上の対策を

平成25年 第4回定例会 12月18日



12月18日、平成25年の第4回定例会が開かれました。

◎24年度決算認定
平成24年度の一般会計及び水道事業会計は、決算特

別委員長から報告があり、いずれも意見を付して認定しました。

(10ページ参照)

◎25年度補正予算

平成25年度予算に、3097万円を増加し、総額52億5467万円としました。

〈主な内容〉

・一般管理費
普通旅費

100万円 増額

(町長のトップセールス
海外出張に40万を含む)

・スコアレセンター費

施設管理業務委託料

87万円 増額

・沼田ダム施設管理事業費

沼田ダム導水幹線補修工事

1450万円

(導水管の破裂補修)

・道路橋梁維持費

町道維持管理業務委託料

86万円 増額

町道除雪業務委託料

513万円 増額

・商工振興費

年末商店街活性化集客事業

30万円

(まちなかにぎわい創出)



抽選でにぎわう商店街

・消防施設費

負担金 深川地区消防組合

933万円 減額

第7回臨時会 10月17日

一般会計補正予算

○風害事故損害賠償金

4万7千円

○清掃手数料の増額

91万円

第8回臨時会 10月28日

一般会計補正予算

○農産加工場製造費の増額

450万円

加工用原材料(トマト)
が沢山とれたため。

第1回臨時会 26年1月9日

一般会計補正予算

○学校管理費の増額

43万円

遮光カーテンの設置。

○地籍図修正

8万4千円

・教員住宅管理費

教職員住宅実施施設設計委託料

798万円 減額

家屋購入費

408万円 減額

・教育振興費

社会科副読本デジタル副教材製作費委託料

500万円

など、一般会計、特別会

計の歳入歳出の補正を行いました。



電子黒板を活用した授業

安心できる介護制度の実現を求める

介護保険制度が始まって以来、制度改定がされるたびに給付が削減され、使いづらい制度になっています。

介護報酬の引き上げと、保険料・利用料の軽減と訪問ヘルパーによる必要なサービスが受けられるよう要望しました。



「要支援者に対する介護予防給付継続」と「利用者負担増の中止」を求める

要支援者に対する介護予防給付を継続し、利用者負担を増やさないこと。

介護保険財政に国が責任を持つことを要望しました。

森林・林業・木材産業施設策の積極的な展開を求める

森林は二酸化炭素を吸収・固定するなど果たす役割は、重要です。

しかし、山村地域の産業を取り巻く状況は厳しい。安定的な予算・財源の確保を要望しました。

TPP交渉からの撤退を求める

政府はTPP交渉への参加を強行しました。交渉した情報を国会に報告し、国民的議論を行うべきです。

これに反した交渉は撤退することを要望しました。



シリーズ追跡⑥

平成24年12月久保元宏議員の一般質問

問 子どもたちの食育、地産地消、健康(心と体)のための「ごはん給食」は、どうなりましたか

答 最新の施設設計に反映しました。



新しい給食センターの設計にあたっては関係市町から全体で20名の施設整備検討委員会が立ち上げられ、沼田町からは学校関係者と、保護者代表としてPTA連合会の副会長にそれぞれ参加いただき検討を進めていただいたほか、実際の調理現場で働いている深川市と沼田町にある北空知学校給食組合の両センター職員からも意見の聴取を実施しています。

このほか検討にあたり正副組合長や検討委員、組合議会議員による先進地視察も行われ、最新の衛生基準に基づく施設の設計に反映させています。

諸準備を経て平成27年4月に供用開始となる予定です。

久保議員のコメント

たしかに私の公約「ごはん給食」は、深川市にできる給食センターにより実現されます。しかし、「ごはん給食」とは、「食育、地産地消、健康(心と体)」などの理念を実現するための象徴なのです。また沼田町にある数少ない貴重な職場を無くすことにも疑問を感じます。

どうか、本事業が理念を「ハコモノ」に置き換えただけに終わらぬよう、理念をしっかりと担保する政策の設計に期待いたします。

畜産経営の安定を求める

畜産の経営は生産コストの増大で悪化しています。

畜産経営の安定と再生産の確保が図れる水準に引き上げることを要望しました。

水田農業の経営安定を求める

経営所得安定対策及び生産調整の見直しで、生産現場は大きな混乱と不安をもたらしています。

水田農業の持続的発展を期すため、適切な需給調整と所得確保を要望しました。

町長への一般質問

問 沼田町の自主防災組織の在り方は

答 情報提供をし対応したい



高田 勲
議員

問 私たちの町では、先般ハザードマップ「防災のしおり」を全戸に配っていたいただきました。立派なものができたと思えます。

この中に、避難準備のための、非常持ち出し品、災害備蓄品の必要性が書かれています。さらに、自主防災組織の在り方を唱えています。これらの重要性をどのように町民に伝えたいだろうか。

私たちの町では、災害の「自助」の部分が欠落していると思います。

先の新潟での、中越、中越沖地震を経験した地域で

は、自主防災会結成と活動の手引きを作り、住民に災害自助の意識向上を図っています。

私たちの町の自主防災組織率をどのように向上させて行くのか。

二点目として、自主防災組織に望むことは何か。

三点目として、避難訓練、防災訓練などを実施しないのか。



現在、5つの行政区が自主防災組織を作っていますが、町としてのフォローがされてなく、充分機能していません。

自主防災組織の必要性は認識しております。その為にも各行政区とも連絡を取り、地区担当職員も活用し情報提供を行きたい。

二点目は、自主防災組織

には行政ではカバーできない地域の災害弱者、高齢者の避難などを一時的に担って頂きたい。

三点目では、防災訓練、避難訓練は、行政、住民と一体にした訓練は行った経緯はありません。

警察、自衛隊、各関係機関と、どのような訓練が良いのか連携を深め協議して行きたい。

問 農業の6次産業化を推進できないか

答 生産者、JAと連携し、推し進めたい



内勝巳
議員

問 本年、個別所得の減額を始め、5年後には減反政策の見直しなど、国は農業政策の大転換を考えています。

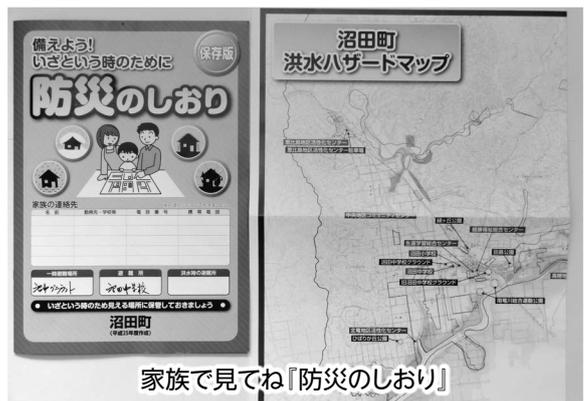
TPPに関して、未だ方向が見えない中で大変、厳しい状況にあります。

将来どのような状況になっても対応できる、強い農業を推し進めなければなりません。

それには、農業の6次化の推進が必要です。

農業者が自ら生産、加工、流通への取組をして行かなければこれからの農業に対応出来ないのではないかと思います。

JAなどと協議し、どのような取組がいいのか、検



家族で見えてね『防災のしおり』

討すべきと思います。

町長の見解を聞きたい。



突然の農政転換に農業者の皆さん

は本年度の計画に不安の状況かと思っております。

現状、沼田町では6次化の取組は行われていませんが、農商工連携の中で、2年前から雪中米、特産品を使ったブランドづくりをして、何とか販売に転化すべく取組んでいる所であります。

また、若い農業婦人との懇談では、カフェや、農家レストランなどをやりたい方もいました。これらは、6次化の中での取り組みですので今後も耳を傾けたいと思っています。



**問 新規就農者の自営就農を
どのようにサポートするか**

答 優先課題として、各機関と協議、新たな制度も



之 範 野 鶴 議員

問 今年度より農業総合対策室が新設されました。

その仕事は「三つの推進事項で協議する」とあるが、どのように検討されたのか。

① 「担い手確保対策」

特に新規就農者が自営就農を始める時、資金の担保、保証をどのような形でサポートできるのか。

② 「農地流動化対策」

円滑な流動化を図るためには、農業振興公社の設立、農業法人化の推進とあるが、どのように検討されたのか。

③ 「農業所得の向上対策」

今後TPP、米の生産調整の廃止など取り巻く環境は厳しさが増すばかりです。農産物のブランド化、米の次の作物や6次化の推進に

向けた推進とあるが、なかなか進まないのが現状です。具体的に、どのような取り組みを考えているのか。



担い手確保対策については、現在

3組が就農準備をしています。

研修終了後、就農に向けた営農形態、生活設計等の支援体制などを優先課題として取り組んでいます。



「元気塾」の現地研修

営農資金などの融資も農協はどう係っていかか協議したい。

これ以外に、農業青年の配偶者対策も今後応援していきたい。

農地流動化対策については今後、1000haが対象になっていきます。

これを引き継いで農地を守っていく事は大きな課題です。

十分に検討したいと思う。

農業所得の向上対策は、長年いろいろな取り組みをしているが難しい。

だが、ここに来て大きな局面を迎えているという理解をしている。

今後、さらに対策室で検討していきたい。

**問 旭町の歩道拡幅工事は
どのような整備計画なのか**

答 27年度以降に整備計画を予定



敏 昭 渡 議員

問 国道275号線、旭町の踏切より田島公園までの歩道拡幅工事の予定があります。

この区間は夏でも狭い歩道の中に電柱や街灯がひしめき合い、歩きづらい。冬になると除雪が十分に



現状幅員は1.5mの中に電柱や街灯

が設置されています。

田島公園のカーブも含めて危険で狭いと認識しています。

今回の計画では幅員は両側で両方とも25mに伸ばします。

旭町の踏切、田島公園の交差点の拡幅、改良も行います。

支障となる電柱は計画では、車道側の境界に電柱と街灯を集約すること考えています。

街灯のLED化については費用対効果を含めて、慎重に検討します。

旭町の歩道は歩きづらい



**渡邊敏昭議員、
そのほかの質問**

**問 特定秘密保護法による
公務員の影響は**

**答 詳細はまだ
知らされていない。**

問 打てば響く行政を

答 ていねいな説明を心掛ける



津川 均
議員

問 町民から、「町に要望や苦情を言ってもなかなか対処してくれない」といった不満の声が聞かれます。

また、コンパクトタウン構想や医療施設などについても町民の皆さんに十分な理解が得られていません。デマンドバス問題しかり、国道改修問題しかり、農業問題しかりです。

全ての不満や苦情を満足いくように対処するのは無理にしても、「言っても無駄」感が町民にあるのは憂慮すべきです。

やはり、説明や報告で、もう少ししていねいな、もう少し親身な対応をすべきだと思いがどうか。



苦情・意見については各行政区などを通じて出していただいで、各課でできるものではないものに分けて文書でお答えしています。

各課できちつとした対応をしていると思いますが、十分でないところがあるとすれば、具体的にご指摘いただきたいと思います。

町民に解り易い町政をしなければなりませんので、いろんな機会を通じて、ていねいに説明をするように心掛けたいと思います。



よりていねいな説明を

傍聴席の生の声

質問・答弁ともに熱心であり、うれしく傍聴させて頂いて居ます。しかし、どちらも早口な人が多く、充分理解できない時があります。

時間的なこともあろうかと思いますが、ゆっくり話してほしいと思いました。

傍聴席の生の声

いつもは議会広報で情報をえています。読みやすい編集ですね。

今回傍聴して質問と理事者・課長の答弁を聞いてから広報を読んだら、また楽しいのかと思います。

今回の定例議会の傍聴者は、10名でした。

みなさまの傍聴を待っています。お気軽に、ご来場下さい。



昨年11月22日、視察

鹿の電気「防護柵」を更新地区に設置

鹿の農業被害は、長年の悩みでした。議会でも何度も議論や視察を重ねてきましたが、電気による「防護柵」をまず更新地区に設置いたしました。

組合を作り管理する

更新地区は山、谷、川などが入り組んでいる複雑な地形をしています。そのラインにそった農地に合わせた、ていねいな工事がされました。これにより、張り巡らされた電流が流れている電線に鹿が触れると逃げてゆくため、農業被害が防げます。

今後は漏電や、雪害の対策を行ってゆく必要があります。そこで昨年11月30日に、区内の農家による管理組合が設立しました。

しかし、鹿を近づけないだけでは、他の地区に移動しての被害や、鹿の増加など抜本的な解決ではありません。昨年は「くくり罠」で鹿を13頭も捕獲するなど、農家や猟友会も貴重な努力をされています。今後も町民の知恵を集結してゆきましょう。



冬などは電線は、はずすこともできるので、雪がふっても大丈夫。

木を打ち込み、その間に電線をはわせます。

子ども議会



自分の言葉で表現するすばらしさ

昨年11月14日

子どもならではの提案

沼田小学校の元気な4年生が21人、議場で町長たちへ質問や意見交換をしました。傾聴に値する魅力的な質問ばかりが10件出されました。

沼田町議会には同じ質問は続けて3回まで追求できるルールがありますが、今回はそれを使わなかったのです。今回は、そのような討論も経験してはいかがでしょう。

また今後は他の世代からも「お年寄り議会」、「若もの議会」、「レディ（女性）議会」などを提案していただき、より身近な沼田町議会を町民とともに育てましょう。



時には、町長の意見に対して担任の先生と作戦会議♪

農産加工場「新工場」、順調に建設中

完成は3月20日
地盤が予想よりもやわらかいため、12メートルの「まさつグイ」を76本打ち込むなど、現場ならではの苦労も重ねつつ順調に進んでいます。
屋上は10年保障の「外断熱防水」、外壁は「ガルバリウム鋼板」を使用するなど、最新の建材と技術が採用されています。（衛生の基準）
完成後はハサップ対応の工場として、沼田町の基幹産業である農業の6次化を推し進め、商品と情報を町外に発信する魅力的な施設になっていただきたいものです。



昨年11月22日、建設現場を視察

総務民教 常任委員会 ★ 視察

移住・定住

「今、住んでいる町民」のためにも人口の増加は必要です。日本中が人口減に悩む中、限られた予算を優秀なアイデアで具体化している行動力を学びました。



■ 清水町 10月15日

定住者には「文化」が必要
 移住者には「仕事」は必要だが、定住者には「文化」が必要だ。なぜならば、「文化」はアイデンティティとプライドを養うからだ。そこで農業を「豆」と「肉」、文化を「ペーパークラフト」の第九」と「アイヌホッケー」と、多重に用意し、複雑なカラーを発光し、幅の広い層の移住者を引き込む工夫がされている。

■ 中札内村 10月15日

通勤者が住みたくなくなる作戦
 高規格道路ができたことを「帯広市へ通いやすくなった」と分析し、すぐに宅地分譲を始め、いわゆる良い意味で「帯広の人口をかつばらう」作戦が大成。

また、「移住・定住」政策を行う前にとった、村民へのアンケートの質問内容や、分析の手腕がすぐれている。行政側に都合のよい誘導アンケートでは住民のニーズを把握できない。重要なのは、住民のニーズを正確にとらえた制度設計だ。



■ 士幌町 10月16日

商工会が不動産業を行う
 今回の視察で最もインパクトがあった人物が、士幌町商工会の高下（こうげ）指導員だ。是非、沼田町の役場や商工会の職員も会い、意見交換をすべきだろう。

なんと商工会が「移住・定住」を目的とした不動産業を行っているのだ。もちろん、前例が無いために国や道をタフに説得してきた。現在では結果を出しており、むしろ国や道と直接の情報交換をしているという。

■ 栗山町 10月16日

「ちよつと暮らし」を利用
 いきなり縁のない都会から移住してもらおうのは難しい。そこで、札幌や千歳空港、多くのゴルフ場から近いロケーションを利用して、まずは「ちよつと暮らし」でいたるところからスタートする政策。



産建福祉 常任委員会 ★ 視察

「雪」環境の整備

「雪と共生する町づくり」を推進して行く上で、「融雪溝による除雪」の状況と、「雪をエネルギーとした環境」の課題を調査しています。



■ 名寄市 6月24日

投雪不能の経費は開発局
 空き地や高齢・障害者などの融雪溝への投雪不能者や困難箇所は市が開発局の経費を使い、民間に委託している。委託区間は開始直後では450mであったが、現在は950mに増加し、全体の30%が委託区間となっている。



■ 積丹町 10月9日

流雪溝は日に3回のみ
 排雪する場所が少ないため流雪溝の利用が重宝されている。水量制限のため、流雪溝が使えるのは1日3回（1回35分）までである。

平成24年の維持管理費は800万円。平成20年からみると倍増している。



■ 岩内町 10月9日



空き地は近所が除雪
 空家、空き地の除雪は近所が手がけ、それ以外は放置している。小型除雪機を貸し出す制度を作ったが、利用者がいなかった。

■ 倶知安町 10月10日

沼田町の融雪溝は理想的
 融雪溝に雪を流す時間が限られているため、作業できる者が限定されてきた。

そのためもあり、空家、空き地の融雪溝の雪は手付かずである。それらの地域は、それぞれの道路管理者が対応している。国、道に経費の負担を求めたこともない。



平成24年度 決算特別委員会

10月21～28日

委員長 中村保夫
副委員長 鵜野範之



一般会計決算認定に付した意見

厳しい財政状況の中で、24年度は小学校の大規模な改築整備事業を執行したにもかかわらず、1.8億円の繰上げ償還を行い、実質公債費比率6.6%と、前年度を2.4ポイントも下回ったことは、沼田町が健全な財政運営を行っている証であり、職員の努力に敬意を表するところでもあります。

また、町の重点目標であった特定健診受診率を前年度より14.7%引き上げるなど、職員の努力を評価します。

しかしながら、まだ町民に理解されにくい事業、補助金もあり、より簡素化された住民サービスの事業展開を望みます。

① 地域提案型まちづくり事業について

この事業は地域の主体的な活動を財政的に支援し、住民と行政の協働のまちづくりを推進する上で特に重要な事項であると考えます。

今後、地域活動の活性化、防災の組織化などに向け、地域担当職員も相談調整役として行政との連携を図るなど、積極的な取り組みを望みます。



② 子ども達の学力向上対策



昨年12月の小学校校舎完成により、小・中学校とも施設環境が整いました。

更には、学力向上に向けたICT機器の導入により授業環境も整いつつあります。

子どもたちの学力と社会性を育むためにも、更なる教育環境の充実を図るため、沼田町ならではの教育スタイル「一貫教育」を早期に実現し、確かな学力向上に向けた取り組みを望みます。

水道事業会計決算認定に付した意見

計画的に古くなった配水管などの施設改修が進められており、適正な維持管理が行われている。

今後も、厳しい環境ではあるが、健全な事業運営を目指して努力することを望みます。



ICT とは

コンピューターやインターネットを活用する技術。

近年は、学校の授業で活用されることが多い。

その他の意見

Q▼防災計画はどの程度進められたのか。

自主防災の組織化の推進はどの様になったか。

A▼地域防災計画を昨年一部見直し、ハザードマップを作成しました。



Q▼企業誘致、移住定住事業において、魅力的なPRをしているのか。

空き区画は袋地になっているが、利用しにくいのは。

A▼状況は厳しく、北海道に行きたい企業がすくない。雪の心配、働く雇用人の確

保の心配が有ります。沼田独自の福祉施策も説明しています。



Q▼雪エネルギーと雪利用に向けての取り組みに積極性が感じられない。

もっと可能性を探るべきではないか。

雪利用について、農業振興課と政策推進室の2課に分けたが成果が出ていない。

「町民が身近に利用できる事業展開」を議会が要望したが、検討されたのか。

A▼備蓄基地構想協議会の解散後、新たな協議会ができました。

将来的には海外を視野に入りたい考えです。

雪氷クリーン熱証書も取り組んでいきたい。雪の販売は若干ですが増えています。

Q▼教育総合アドバイザーとサポート授業について」なかなか進み方が見えない。先生との連携はうまくいっているのか。

A▼学校の先生が主体になることが必要です。少しずつですが進んでいます。



Q▼町道・道道・国道の交差する地点は雪の処理がうまくされていないケースが多い。

A▼管理者同士の話し合いをしています。

Q▼住民健診について、次回も気持ちよく受ける工夫をしてもらいたい。

A▼待ち時間が少なくなるように考えていきたい。



Q▼公営住宅の整備について、ニーズに合った住宅環境となっていないのでは。公営住宅の不備が原因で、移植定住が進まないのではないか。



A▼現在202戸中183戸が入居しています。ただ、人気の建物は抽選を行っています。



55号のお詫びと訂正

9月の定例議会において「特定機密法案（仮称）の反対と国会提出中止を求める意見書」が久保議員より提出されました。

議会質疑のなかで渡邊議員から「議論がされない中、反対。提出中止を求めるには時期尚早」との意見が出され、否決されました。

渡邊議員の意図する内容でなかった記事に対して訂正してお詫び申し上げます。

みんなの広場

「町民に身近な 改良区」



沼田町土地改良区理事長 堀田輝幸

一般町民の皆様にとって、土地改良区って何をしている所なのか良く分からない部分があると思います。改良区とは沼田町と北竜町の一部(美葉牛側の東側)の田畑3,400ha余りに必要とされる水を供給し、更に排水を通して使われた水を河川に戻すための設備を作り、又、田畑の区画を整え地下水を除く為の暗渠工事などを行っている所です。

明治28年に沼田喜三郎氏が現在の口美葉牛(くち・びぼうし)に水稻の試作をしたのを始めて以来、全町あちらこちらで水利権の許可を(今でもこの水利権が無ければ勝手に水を使えない)もらい、最終的に幌新ダムの完成により昭和51年に北竜町美葉牛の一部が地区に編入された事により、現在の土地改良区の姿が出来上がりました。

平成25年12月現在、組合員数218人、水利権41、頭首工18ヶ所、用水路延長38.45km、排水路26.9km、揚水機50機、ダム・貯水池10ヶ所と、他の改良区に比べて非常に施設の多い地区を現在10人の職員で管理をしています。

昭和38年の農業構造改善事業による区画整理の着工以来幾度となく国営、道営により圃場の整備が繰り返され、現在の美田が出来上がりました。今後も様々に変化する時代に合わせエンドレスに改善が進む事と思いますが、町民の皆様にはしっかりと応援していただきながら見届けて下さるようお願い致します。

議員の今年の思いを 5文字で



きょうどう



さまがわり



はげましを



たるをしる



けんしょう



コンパクト



こどもたち



むすびつき



かぜをよむ



なやみぬく

浅野局長 がんばろう

吉田書記 おもいやり

あとがき

今年、沼田町開拓120年の大きな節目を迎える年であります。

先人が、荒れた原野に人植し想像を絶する過酷な環境の中で長い歳月をかけ、今の美田を作ってくれました。

その過程には明治、大正、昭和の大凶作があり、食べるものがなく、木の葉や根っこを食べ、飢えを凌いだ経験が「沼田町史」に記されています。

ここ、3年続きの豊作ですが、必ず試練は来るものと歴史は物語っています。

災害を経験していない若い農業者は本年、開拓120年の節目の年に是非とも「沼田町史」を見て、先人の苦勞を参考にさせて頂きたい。

広報特別委員

中村保夫 長原 誠
鶴野範之 久保元宏